【凡例】

会社名（または刻印・煉瓦の仮称）

（印影）

（大阪窯業刻印を基準にしたおよその倍率）

A：工場所在地
B：工場存続期間
C：当該刻印使用時期
D：刻印採取物件
E：該物件所在地
F：該物件建造年
G：マッチング根拠
H：特記事項
※印影文字は似たフォントで代用したものがある。 ※出典略記は以下の通り。煉瓦史：水野信太郎『日本煉瓦史の研究』、集成：同『国内煉瓦刻印集成』（中部産業遺産研究会「産業遺産研究」第8号）、『年報』：泉南市埋蔵文化財センター年報H22版

香川県

西讃煉瓦株式会社

A：香川県三豊郡観音寺村
B：明治29年(1896)11月～明治35年頃（明治42年以前）
G：新聞広告
H：大阪毎日新聞M30.8.18.広告掲載の社章。釘を輪にしたような形象を2つ重ねる。同型印の検出／未検出は不明だが、別子銅山喜三谷社宅などで右に掲げる刻印煉瓦が見つかっており、これが西讃煉瓦の製品と考えられる。

西讃煉瓦株式会社

A：香川県三豊郡観音寺村
B：明治29年(1896)11月～明治35年頃（明治42年以前）
D：別子銅山東平索道基地貯鉱庫
G：新聞広告
H：別子銅山東平地区などで検出されている刻印。高橋幹「東平の煉瓦」（山村文化研究会『山村文化』第17号）参照。別子では他にもかなで「せいさん」と書かれた煉瓦も見つかっているという。

讃岐煉瓦株式会社

A：香川県豊田郡常磐村→観音寺市植田町
B：明治30年(1897)6月～昭和末期に転業
G：新聞広告
H：大阪毎日新聞M30.10.3.広告に掲げられた社章。「讃」字を松葉菱で囲む。全く同じ印は見つかっていないが、ここから松葉菱印が始まったのは間違いない。同社は明治42年頃に西讃煉瓦を買収し観音寺分工場とした（その後本社機能も移転）。

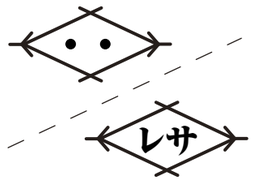
讃岐煉瓦株式会社

D：別子銅山東平索道貯鉱庫、旧別子地区
F：明治42年以降？
H：旧別子地区醸造所遺構など、別子銅山の各所で検出される讃岐煉瓦刻印。左書きの「サヌキ」の文字に英数字・漢数字の添印が付される。添印には「分」の文字を冠したものもあり、讃岐煉瓦分工場で製造されたもの（明治42年以降製造）と思われる。

讃岐煉瓦株式会社

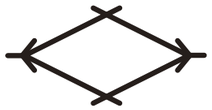
D：東平地区第三通洞変電所中庭、広島県物産館、大阪市北区中崎町花壇ほか
F：明治末～大正初期？
G：文献等
H：広島原爆ドーム（旧県立物産館：T4竣工）等で検出されている"松葉菱＋数字"タイプ。別子銅山では第三通洞変電所（明治42年竣工）の中庭などで検出されている。明治40年代以降に建造された構造物で検出されることが多いようだ。

讃岐煉瓦株式会社



D：端出場発電所水路脇転石、水路使用石
F：明治42年（1909）
H：第三通洞から端出場発電所へ水を引く水路に使われている刻印。中型の松葉菱に「・・」が入る。また水路脇の転石で「サレ」文字入りのものを検出。「サ」ヌキ「レ」ンガの略と考えられる。同水路には何も内包しない松葉菱刻印も見られ、左書き「サヌキ」は見られない（大阪窯業、岸和田煉瓦、日本煉瓦等大阪の工場の製品は頻繁に見られる）。

讃岐煉瓦？○特刻印



D：中崎町転石
E：大阪市北区中崎町
H：松葉菱のみの刻印に、丸で「特」を囲った刻印が添えられているもの。特製・特級の意か。呉鎮守府旧兵器支廠でも見つかっている（広島市郷土資料館調査報告書第16集『れんがと広島』p.34）。

讃岐煉瓦株式会社

D：中桜塚地区共同墓地
E：大阪府豊中市中桜塚4-15
F：昭和初期
G：文献
H：松葉菱に「サ」の文字を内包する印はJISサイズの煉瓦に押されていることが多く、戦後の製品と考えられる。中桜塚共同墓地も昭和初期に整備されたものである。

竹本煉瓦製造所

A：丸亀市船頭町（地方町）
B：大正5年（1916）6月～同9年2月？
H：『大日本商工録』第2輯に社章掲載。『香川県統計書』大正5年版では製造高700,000個とあり比較的盛んに製造したものと思われる。工場主・竹本勢一は後年丸亀市に創業した丸亀煉瓦（株）の代表者。

丸亀煉瓦株式会社

A：丸亀市地方町
B：大正9年（1920）2月～同15年頃
H：『窯業銘鑑』大正13年版に社章掲載。広島県呉鎮守府建物、旧陸軍宇品糧秣庫、旧広島電燈亀山発電所、芸予要塞などで見つかっている"亀甲＋カナ"印の使用社と想像されるが、上記構造物はいずれも明治期のものであり疑いの余地はある。工場所在地（丸亀市内）では検出できず、違う可能性のほうが高そうだ。

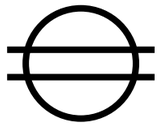
"亀甲＋カナ"刻印

D：奈良県王寺町転石
H：関西地方では王寺町で"亀甲＋ヒ"刻印の検出例がある。また尼崎市では亀甲型（凹のみ）が1例見つかっている。

香川県監獄署跡出土刻印

A：高松市西の丸町
B：明治30年(1897)～31年？
D：高松城址発掘調査現場
H：高松城址発掘調査現場（旧・香川県監獄署陶芸工場跡）で出土した煉瓦刻印。同監獄の作陶指導は理兵衛焼窯元・10代理平が行なったとされ、同窯が高松藩主に使用を許可された「破風高」印との類似が指摘されている（佐藤竜馬「煉瓦生産と建造物ー香川県を中心に」（『考古学ジャーナル』No.569）。なお明治33年まで指導と記録にあるが同31年に監獄署は移転しているとのこと。

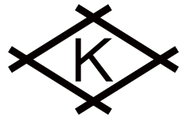
タマモ陶業協同組合



×0.5

A：綾歌郡綾南町千疋560-1
B：昭和50年（1975）～平成16年頃
D：高松市・丸亀市路傍
H：平中央に大きめの刻印。丸亀市路傍で見た煉瓦梱包用タイラップによればタマモ陶業（協）がこのマークを用いていたようだ。H14には同じ所在地の西谷陶業株式会社がこの製造事業所で製造した煉瓦（タマモロータスレンガ）が香川県リサイクル製品に認定されている。両社とも現在は操業が確認できない。

（推）香川煉瓦（株）



A：高松市神在川窪町110-2
B：昭和34年（1959）頃～41年頃
D：神在川窪町路傍、神在港油槽ポンプ小屋
H：京阪神地区でも希に検出する刻印。高松市神在川窪町で多数の転石を見るほか、神在港の油槽ポンプ小屋に使われている煉瓦（機械成形）にもこの刻印を検出する。和歌山県鳴神団地では和歌山煉瓦の分銅印と共使い的に使用されている例あり（戦後の和歌山煉瓦の製品と思われる。鳴神団地自体が昭和30年代開発か）。

（推）四国産業（株）

A：高松市神在川窪町617-1
B：昭和13年（1938）三金産業工場～昭和16年四国煉瓦（株）～昭和20年四国産業（株）～昭和38年頃廃業
D：神在川窪町路傍ほか
H：京阪神地区、奈良県下でしばしば見られる刻印。高知県魚梁瀬ダム付近でも検出例があり、分布はかなり広い。工場所在地の街場でも検出例がありこの工場の製品と推測したい。戦前は土管や瓦がメインで（呉海軍工廠指定工場）、戦後は製材や藁製品など復興建築材料も手がけ（GHQ向け）隆盛したのち煉瓦専業に。

愛媛県

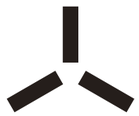
"いよみつ"刻印

D：芸予要塞・下関要塞
G：文献
H：瀬戸内海の要塞施設で検出例がある刻印。「伊予三」と解して愛媛県三津浜町の三津浜煉瓦の使用印と推定されている。三津浜煉瓦はその前駆体が明治18年頃から操業していた節があり、また明治26年～34年頃には「伊予煉化石製造所」「伊予煉瓦合資会社」名義で製造した。三津浜煉瓦製造所を名乗るのは明治35年以降、また大正2年に株式会社化。

"○ト"刻印

D：三津浜煉瓦工場跡、広島県呉鎮守府旧糧秣支廠宇品海岸倉庫、大阪府城東区貞徳舎工場壁
H：三津浜煉瓦創業地とされる場所で見つかっている刻印（山村研究会『山村文化』第31号。右記三津浜煉瓦刻印の出土地とは別）。同じものが呉鎮守府倉庫（明治30～）や大阪府貞徳舎壁（明治24頃）でも検出されている。明治中期にはすでに瀬戸内圏で煉瓦流通があったことを物語る刻印である。

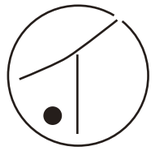
三津浜煉瓦



×0.5

A：愛媛県温泉郡古三津町
B：明治18年創業～明治31年（1998）4月三津浜煉瓦製造所と改名～大正2年（1913）9月株式会社～昭和30年代後半
D：花壇縁石
E：大阪市東淀川区十三東
G：文献
H：典拠は山村研究会『山村文化』第31号。古老聞き取りで同社のものという証言が得られている。十三に見られるものは機械成形煉瓦に径2cmほどの大きさで打刻。播州煉瓦合同刻印と類似。

"㋑"刻印



×0.5

D：愛媛県新居浜市坂井町転石
E：新居浜市坂井町1
H：路傍転石採取。JIS煉瓦に直径3.3cmほどの大きさの"○イ"を打刻。あるいは手書きかも知れない。該煉瓦の長手には"の"字も刻まれる。やはり打刻なのか手書きなのか判断しづらい刻みである（刻みの断面がV字型ではなくU字型をしている）。

愛媛県

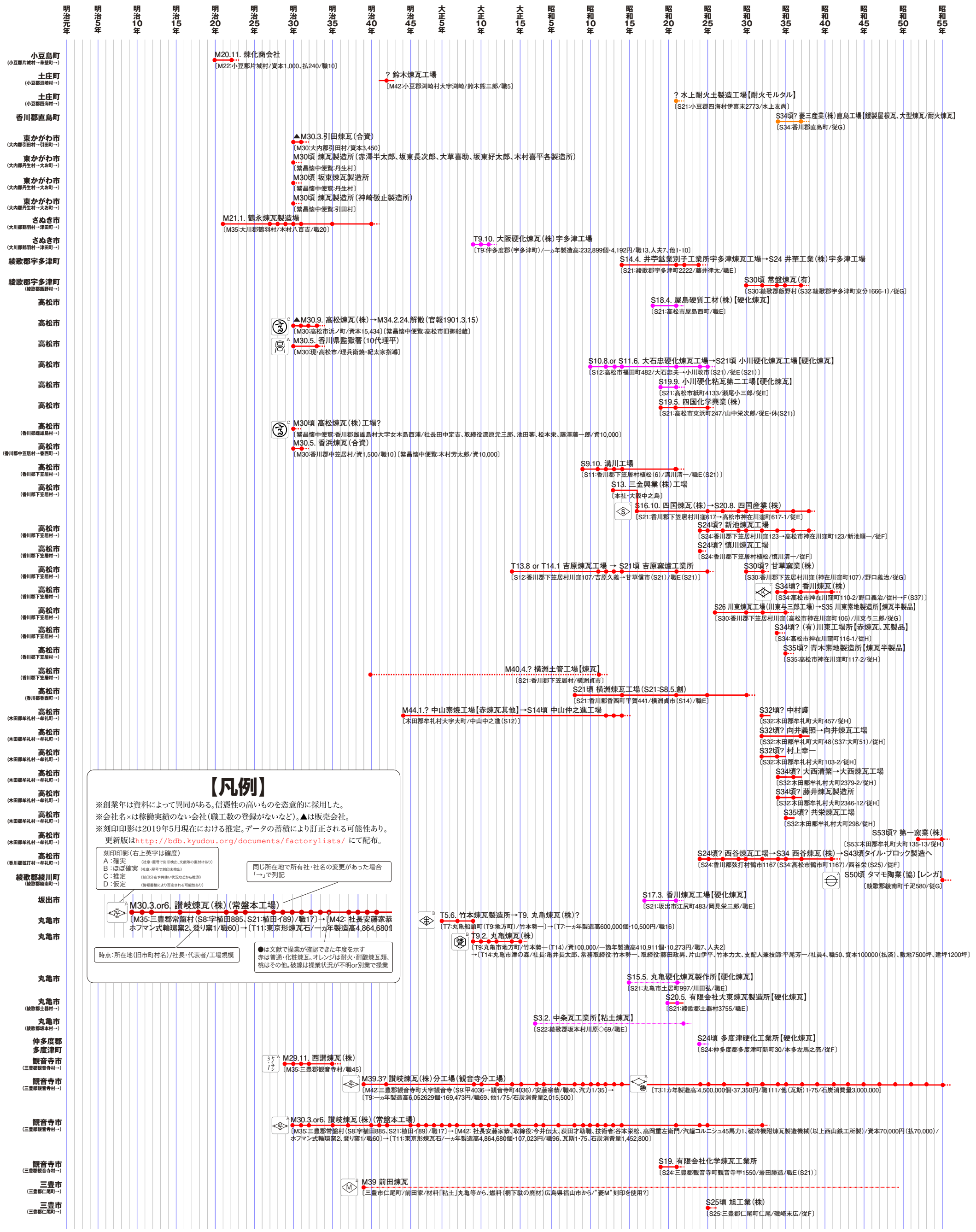
【耐火】

伊予窯業（株）断熱煉瓦？

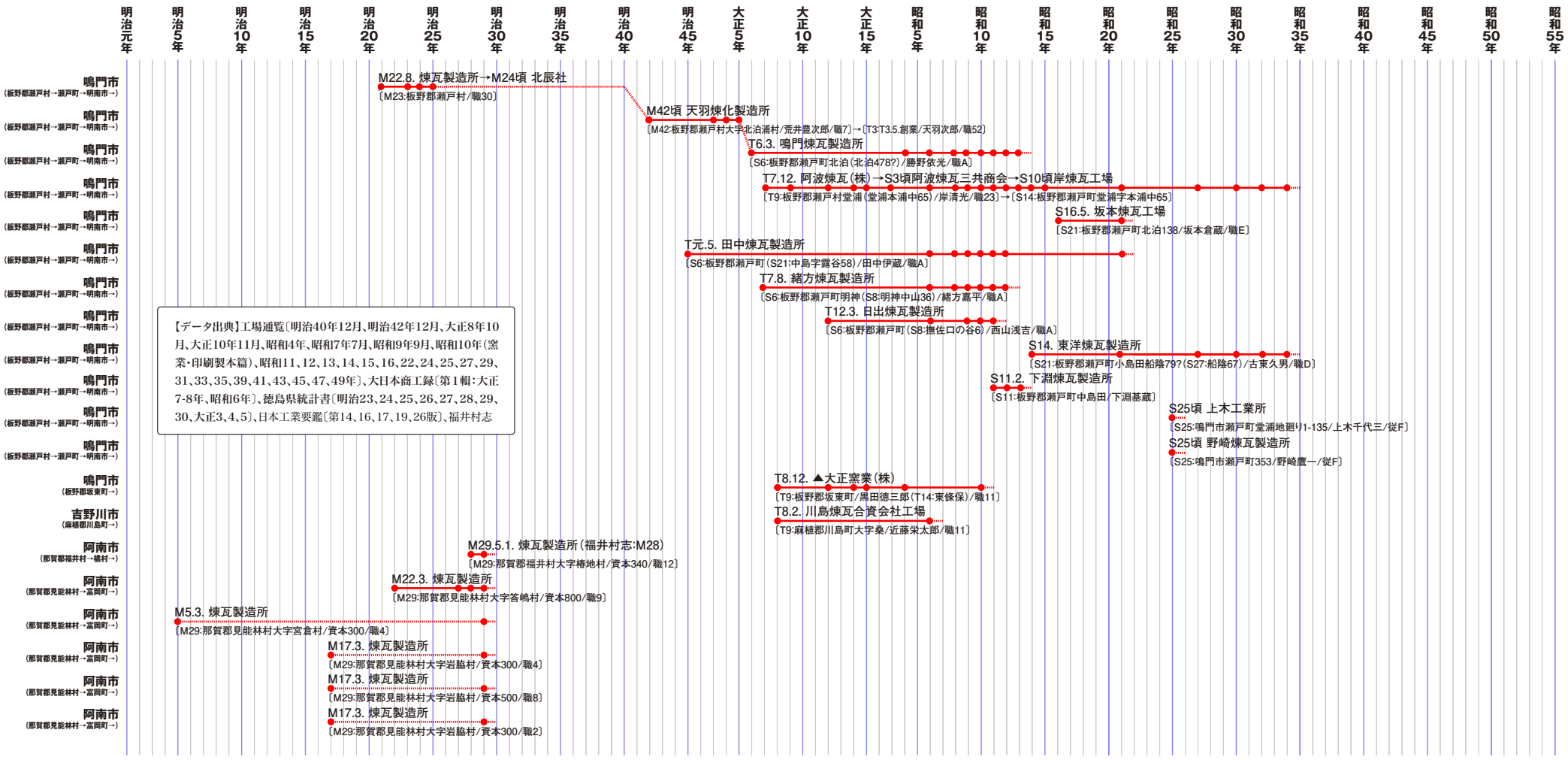
C-1
IYO-RITE

A：愛媛県伊予郡灘町355（伊予市灘町）
C：昭和30年（1955）～45年頃
D：尼崎市潮江路傍転石
H："IYO-RITE"と"C-1"の文字。伊予窯業の製品か。"C-1"は耐火断熱れんがの規格（C類の1）を示す表記で、圧縮強さの規定を設けた耐火断熱煉瓦を示す。炉の迫受や壁下部、振動を受ける場所などに用いられる断熱煉瓦である。

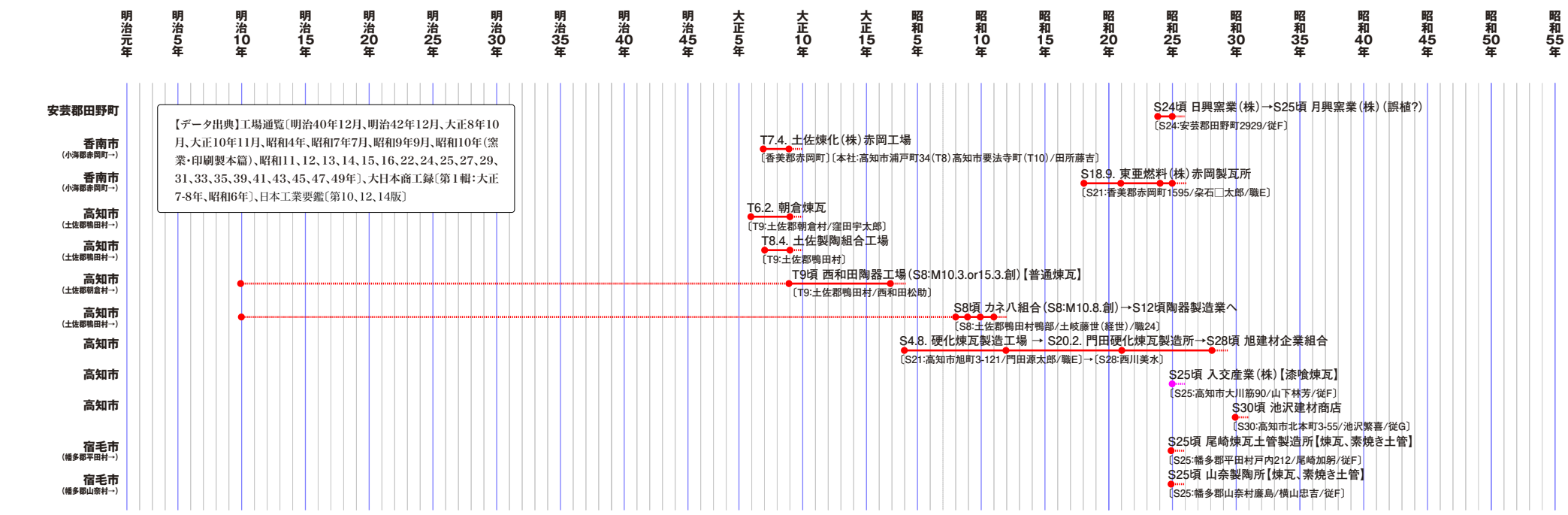
【データ出典】工場通覧〔明治40年12月、明治42年12月、大正8年10月、大正10年11月、昭和4年、昭和7年7月、昭和9年9月、昭和10年(窯業・印刷製本篇)、昭和22、24、25、27、29、31、33、35、39、41、43、45、47、49年〕、大日本商工録〔第1輯:大正7-8年、昭和6年〕、日本工業要鑑〔第12、14、16、17、19、27版〕、香川県統計書〔明治22、27、28、29、30、31、32、40、41、42、43、44, 大正1、2、3、4、5、6、7、9、10、11〕、佐藤竜馬「煉瓦生産と建造物－香川県を中心に－」、下笠居村史、大日本繁昌懐中便覧　香川県　巻上、日本全国諸会社役員録〔明治31、32、33〕



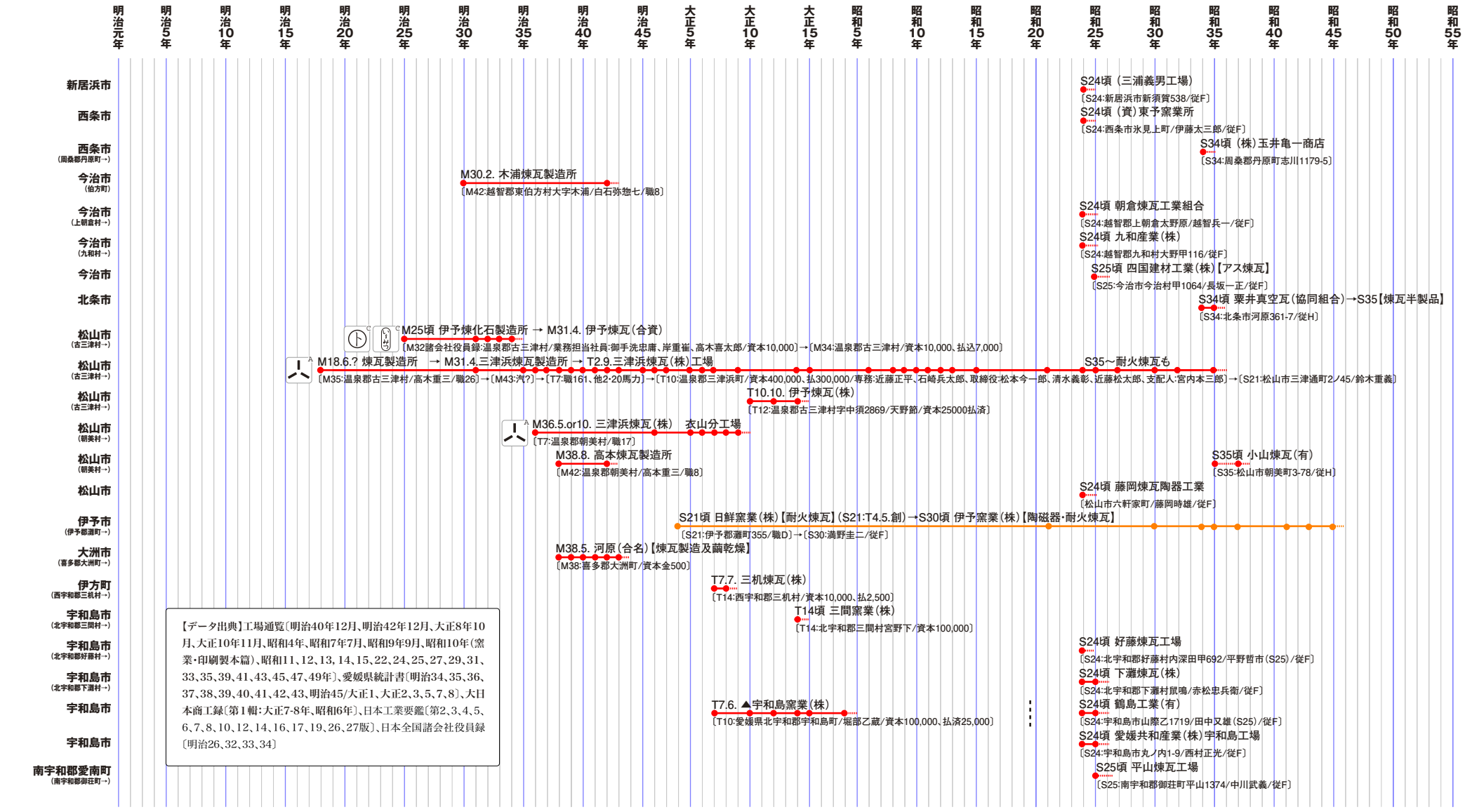
香川県下煉瓦工場の消長



徳島県下煉瓦工場の消長



高知県下煉瓦工場の消長



愛媛県下煉瓦工場の消長